



地震に備えていますか？

家族の安全を守る耐震&減災7プラン

Iw値(上部構造評点)でわかる、あなたの家の強さ。

Iw=1.0以上を目指しましょう。

まずは耐震診断で今のリスクと対策を確認してみませんか。



地震に備える方法は様々で、どれが自宅に合うか分かりにくいことが多いです。この資料では、同じ条件で複数の改修方法を比較し、工事費・改修効果・自己負担の目安をわかりやすく示します。目的や予算に合わせて、改修を検討する際の判断材料としてご活用ください。

(資料集の建物概要)

建設年:昭和53年(S56年新耐震基準前)

構造・規模:木造2階建・1階 113.45㎡、2階 34.22㎡、合計 147.67㎡

【補強工事の一例】



接合部の金物補強



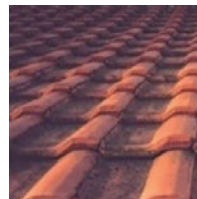
基礎の補強



筋交いによる補強



構造用合板による補強



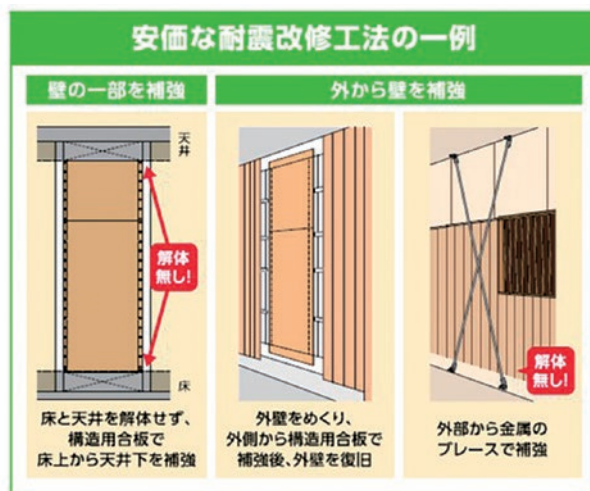
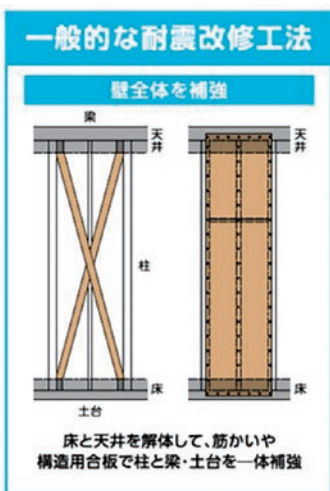
瓦葺き



金属板葺き

低コストに耐震改修を実施しましょう

●愛知県地震災害経験システム協議会が性能を評価した「低コスト工法」により、実施することで安価に耐震改修をすることが可能です。



「低コスト工法」を採用すると天井や床を解体せずに施工できるので

→工事費が少なくなる!

→施工期間が短縮できる!

→工事中も住み続けられる!

耐震改修事業者
リストはこちら→



●問合せ先 023-630-2640

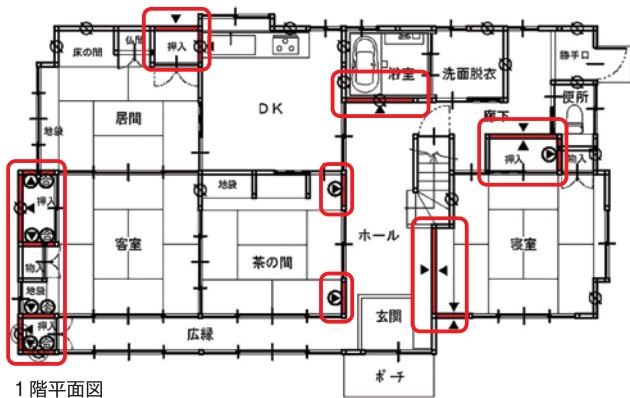
制度の詳細な内容はこちら→

山形県 県土整備部 建築住宅課 建築安全推進担当



1. 耐震改修 — 建物全体を強化 ($I_w \geq 1.0$)

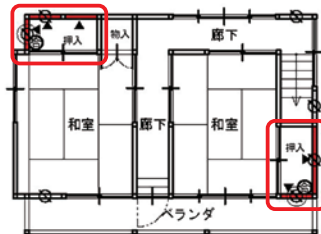
建物全体を補強して I_w を 1.0 以上にする改修です。
倒壊や大破損のリスクを大幅に減らすことができます。



1階平面図

【補強工事概要】

- ・耐力壁追加 (筋交い、構造用合板)
- ・金物取付 など



2階平面図

□ : 補強箇所

I_w 値

改修前

0.30

倒壊する可能性が高い

改修後(全体)

1.08

一応倒壊しない

こんな方におすすめ！

- ✓ 建物全体の耐震性能を高めたい
- ✓ 地震による倒壊を防ぎたい
- ✓ 断熱改修等もあわせて行いたい

● 概算工事額… 347万円

● 補助上限額… 140万円

● 自己負担額… 207万円

※設計費等は別途かかります。

低コスト工法を使用した事例

住宅の概要と一般的改修工法と低コスト耐震改修工法との比較

〈モデル住宅概要〉 構造: 木造 2階建て / 延床面積: 約204㎡ / 建築年: 昭和53年

一般診断法 + 一般的改修工法

Before

補強前
 I_w 0.17

After

補強後
 I_w 1.0

■ 耐震改修工事費… 4,972,000円 (税込)

工事期間: 約2カ月

精密診断法 + 低コスト耐震改修工法

Before

補強前
 I_w 0.47

After

補強後
 I_w 1.10

■ 耐震改修工事費… 2,282,000円 (税込)

工事期間: 約3週間

工事費228万円 補助金140万円 自己負担88万円

工事費: 497万円

補助金
140万円

自己負担
357万円

一般の改修工法

工事費: 228万円

補助金
140万円

自己負担
88万円

低コスト工法

【出典】鳥取県耐震改修促進普及啓発パンフレット(はじめよう! お家の耐震化!)

『精密診断法』により耐震診断をすることで、建物の実態がより正確に反映され、補強箇所を最小限に抑えられる場合があります。

詳しくは専門業者にご相談ください。

※本資料は削減効果を示す一例であり、すべての現場で同様の結果が得られることを保証するものではありません。

※ I_w (上部構造評点) 0.7未満=倒壊可能性が高い 0.7~1.0未満=倒壊する可能性がある 1.0~一応倒壊しない

※補助上限額は市町村により異なります

2. 部分改修 ①—建物全体を補強 ($I_w \geq 0.7$)

建物全体の I_w を0.7以上に引き上げる補強です。
費用と工期を抑えつつ被害を軽くできます。

【補強工事概要】

- ・耐力壁追加
(筋交い、構造用合板、石膏ボード)
- ・金物取付 など

I_w 値

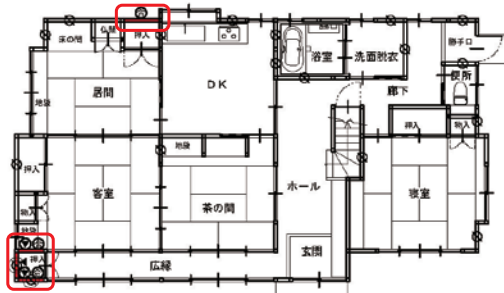
改修前
0.30

倒壊する可能性が高い

改修後(全体)

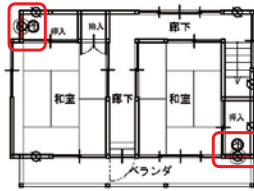
0.73

倒壊する可能性がある



1階平面図

□:補強箇所



2階平面図

こんな方におすすめ!

- ✓ 現状より少しでも耐震性能を高めたい
- ✓ 改修費用を少しでも抑えたい

● 概算工事額…… 178万円

● 補助上限額…… 30万円

● 自己負担額…… 148万円

※設計費等は別途がかかります。

3. 部分改修 ②—1階を強化 ($I_w \geq 1.0$)

生活の拠点となる1階を重点的に強化します。
工期が短く、地震後の生活の継続性を高められます。

【補強工事概要】

- ・1階の耐力壁追加
(筋交い、構造用合板)
- ・1階の金物取付 など

I_w 値

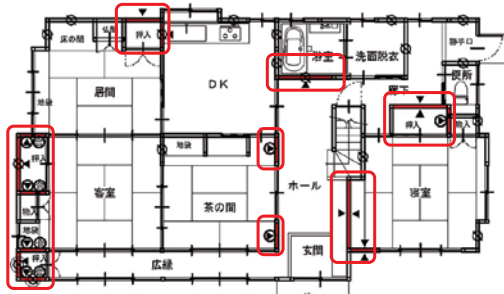
改修前
0.30

倒壊する可能性が高い

改修後(1階)

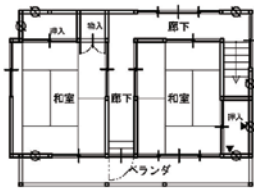
1.13

一応倒壊しない



1階平面図

□:補強箇所



2階平面図

こんな方におすすめ!

- ✓ 生活する時間の長い1階部分の耐震性能を高めたい

● 概算工事額…… 287万円

● 補助上限額…… 30万円

● 自己負担額…… 258万円

※設計費等は別途がかかります。

4. 部分改修 ③—重要室を最優先 ($I_w \geq 1.5$)

寝室や居間などの1室を特に強化する方法です。
夜間や災害時に安心できる「安全な部屋」を確保します。

【補強工事概要】

- ・1階の耐力壁追加
(筋交い、構造用合板)
- ・1階の柱追加
- ・1階の金物取付 など

I_w 値

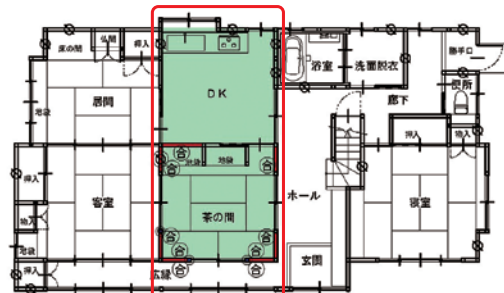
改修前
0.30

倒壊する可能性が高い

改修後(DK・茶の間)

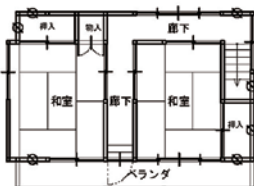
1.56

一応倒壊しない



1階平面図

□:補強箇所



2階平面図

こんな方におすすめ!

- ✓ 生活する時間の長い、寝室や居間など、よく使う部屋の耐震性能を高めたい

● 概算工事額…… 227万円

● 補助上限額…… 30万円

● 自己負担額…… 197万円

※設計費等は別途がかかります。

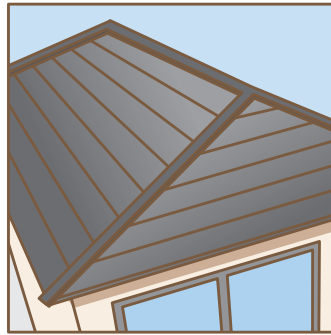
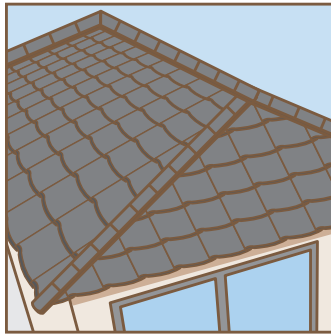
※ I_w (上部構造評点)0.7未満=倒壊可能性が高い 0.7~1.0未満=倒壊する可能性がある 1.0~一応倒壊しない

※補助上限額は市町村により異なります

5. 部分改修 ④ー建物を軽くする

2階部分の減築や瓦屋根を軽い鋼板屋根材に変更するなど、建物全体の重量を軽くして耐震性を高めます。

【補強工事概要】
・瓦屋根から
金属屋根に改修



lw値

改修前

0.30

倒壊する可能性が高い

改修後

0.45

倒壊する可能性が高い

こんな方におすすめ！

- ✓瓦屋根から金属屋根に改修したい
- ✓使用していない2階部分を解体したい

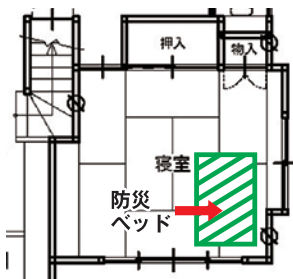
- 概算工事額…… 290万円
- 補助上限額……… 30万円
- 自己負担額……… 260万円

※設計費等は別途がかかります。

6. 防災ベッド

就寝中の地震による家屋倒壊から、工事不要で手軽に命を守ることができます。

※8畳寝室に設置の場合



組立て作業は、1～2名で可能です



介護ベッドを設置できるタイプの製品もあります

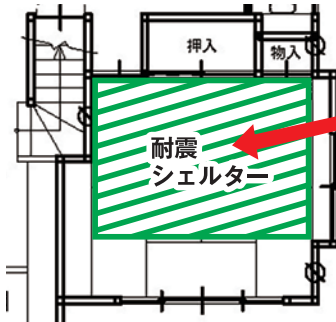


- 工事期間… 2時間(納期約2か月)
- 概算工事額 69万円～
※床補強が必要な場合あり
- 補助上限額 30万円
- 自己負担額 39万円～
- 耐荷重…… 真上10t、斜め6t
- 大きさ…… シングル、セミダブル

7. 耐震シェルター

短い工期で1室をシェルター化し、安全なスペースを低価格で確保できます。

※8畳寝室に設置の場合



- 工事期間… 2日(納期約2か月)
- 概算工事額 46万円～
※床補強が必要な場合あり
- 補助上限額 30万円
- 自己負担額 16万円～
- 耐荷重…… 上部3mから3tの防護性能
- 大きさ…… 6帖タイプ、8帖タイプ

※lw(上部構造評点)0.7未満=倒壊可能性が高い 0.7～1.0未満=倒壊する可能性がある 1.0～一応倒壊しない

※補助上限額は市町村により異なります